

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0371300203		
法人名	社会福祉法人 共生会		
事業所名	グループホーム アミーチ		
所在地	岩手県二戸市似鳥字上平15-1		
自己評価作成日	平成24年8月23日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigvsoCd=0371300203-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成24年9月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の暮らしの中で、利用者一人ひとりが個々のペースに合わせ、ゆとりのある生活を送れるよう側面から支援している。又、日課を作らずに、利用者と一緒に過ごす時間を多く設け、出来る限り会話をする事で、少しでも利用者の声を聞きだすよう努力している。又、昼食は併設のサントピアで食べるようにしており、デイサービス利用の地域の方との交流や運動不足解消・気分転換を図れるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長及び管理者と職員の信頼関係が良好で、何でも聞ける、話せる体制がとられている。又、利用者との話題や、想いを共有できる職員が多くおり、利用者との関係も、穏やかで良い信頼関係が築かれている。地域においても、地域消防、小中校PTA消防協力が、ホームの避難訓練時には協力してくれる。健康診断時にも地域の方(運営推進会議のメンバーが声をかけて)が利用者をサポートして下さり、大変助かっている。昼食は法人の特養へ出掛けて(日曜日除き)入所者、デイサービス利用者と交流をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	苑内の見やすい場所に掲示しており、職員が日々意識して実践するよう努めている。又、職員は定期的に自己のケアについて振り返りを行い、管理者より助言等してもらうことで、理念である「ひとりひとりの思いを大切に」出来るよう努めている。	開所時の理念は長かったので、全職員で短く簡潔に見直した。ホールに貼り付けてあり、利用者も読んでいます。職員はそれぞれの目標を設定し、振り返り評価までしている。ホームとしては「柔らかな心でのケア」をモットーにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の学校からの招待で行事に参加している。市の催し物にも積極的に参加し、招待してくれる事も多い。又、買い物に行くと、レジの方もゆっくりと対応してくれる事が多くなった。市の健康診断を受ける際も地域の方々が積極的に協力してくれるようになった。	小学校の運動会、学習発表会、法人の夏祭り、クリスマス会への参加があり、頻りに子供たちの体験を受け入れている。健康診断や事業所の行事にも地域の方がお手伝いをしてくださり、助かっている。毎年、小中校へ雑巾の贈呈を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	冬季に利用者さんが作成した雑巾を近隣の児童館や小・中学校へ持って行き、生徒さんへ直接手渡し寄贈している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や防災訓練等の報告の他、ひやりハットや事故報告等のリスクマネジメントについても報告している。それに対しての助言や要望、協力も得られるようになった。家族さんが出席された際は、意見・質問等があった場合に受け答えしている。	会議では、活発に意見交換がされており、熱中症対策、健康診断時の支援等、積極的に活動されている。ホームを支える地域への呼びかけを委員さんが率先して行ったださるので、大変感謝している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の健康福祉課の方が運営推進会議の委員でもあり、事業所についての取り組み状況を報告・協議し取り組んでいる。又、市のケア会議に計画作成担当者が出席し、情報交換を行っている。	運営推進会議には、二戸市から福祉部長の参加がある。市ケア会議には担当者が参加、グループホームの県、ブロック会議には職員が交代で参加をしている。	行政の担当とは電話で連絡を取っているが、緊密な関係づくりについて、改善の余地があると感じられる。認知症の理解、サポーター養成等に、職員、ホームを活用してもらうことも、連携を深めることに繋がるので、検討を期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で身体拘束廃止委員会を設置しており、月1回話し合いの機会を設けている。身体拘束廃止マニュアルも作成し、日々の支援に取り組んでいる。又、鍵をかけないようにしており、玄関の自動ドアも利用者が自由に開けられるようにし、鍵の開け方も利用者教えている。	法人で独自のマニュアルを作成している。法人の倫理委員会、オンブズマンにより、検討委員会が開催されている。外に出たい利用者には、職員が必ず付き添って見守りを続けている。今後は言葉による拘束の学習を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について、法人で勉強会を行っている。又、倫理委員会の際、委員の方が利用者に関心を取りをし、悩みや苦情を聞く機会を設けている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての支援に関する事を学び、家族から相談があった際は、受け答え出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みの時点で、出来れば施設見学をして頂き、概要等についても、十分に時間をとり説明している。又、施設利用におけるリスク、家族への協力依頼等も説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所の玄関に意見箱を設置している。法人の倫理委員が2ヶ月に1回、利用者より意見を聞き、運営に反映している。又、家族の意見を聞きだしたり、話しやすい環境作りに努め、意見等あった際は出来る限りすぐに対応している。	家族からの意見は出ていない。担当の職員の名前を知りたいとの要望には、即対応して家族から喜ばれている。また、家族が利用者の通院のため来所した際に、意見や要望を聞く体制を作っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや毎月の事業所会議に、管理者も出席し、気軽に話しやすい環境である。又、代表者とは年に1回個人面談を行い、直接意見等を言える環境である。	物品の補充、勤務時間の変更等の要望には、管理者を通じて対応をしている。事業所会議、法人の会議等にはホームからも出席して意見を述べている。個人面談で意見を述べる機会が年1回あり、聴く体制、言える体制が良くとられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見等をその都度聞き、出来る限り取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では法人内の各事業所が持ち回りで研修を行っており参加したり、講師を務めるなどしている。外部研修にも積極的に参加し、知識の向上に努めている。又、事業所では振り返りシートを作成し個人の業務目標を設定し取り組み、振り返りの自己評価を行った後、管理者にも評価してもらい向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県グループホーム協会に入会しており、協会が主催する研修・定例会に積極的に参加している。県北地区のグループホーム定例会にも積極的に参加しており、交換研修等で他事業所へ行き実習等行い、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みの時点で、家族から事前の情報を出るだけ収集し、出来ればご本人との面談の機会を設けている。又、担当職員を決め、個別に支援出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みや契約の際には、担当ケアマネージャーや担当職員が相談をよく聞くようにしており、十分な時間をかけて説明等している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容を聞きながら対応しているが、他のサービスも受けた上で相談に来ている方が多い。又、当ホームでの対応が難しい場合は、他事業所や担当ケアマネージャーとの相談も行うよう努めている。本人や家族から聞き取りを行い、センター方式とアセスメント行った上でプランを作成し同意を得てサービスを実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	何かやる時は一緒に行う様にし、本人の出来る事を見つけ出して行って頂き、出来ない部分を支援するよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診は家族が行う事を原則としている為、家族は日常の様子を把握して頂いている。些細な事でも家族へ相談・報告し、家族に判断を委ねている。又、希望があれば家族と一緒に食事外出等に出掛ける方もいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の特養の短期入所やデイサービスを経てきた利用者が殆どで、利用者と職員は顔なじみの関係が出来ている。昼食時に、知り合いのデイサービス利用の方と長話をする事も多い。又、入所前より行きつけであった美容室に通っている方もいる。	法人の特養で昼食をとることで、デイサービスの利用者とは話をしたり、行事に参加をして地域の方と会ったり、なじみの関係を続けている。家族がお赤飯を届けてくれて、皆で頂いたりすることもある。いきつけの美容院に行く方はホームで送迎をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が声を掛け合っ一緒にいる時が多いが、利用者間にトラブルが起きそうな場合は、職員が仲介役となり、良好な関わり合いを持てるよう努めている。孤立しがちな利用者には職員が付きっきりで、本人の得意な事を行ってもらようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に住み替えになった場合は、入所前に情報提供シートを作成し既往歴等の他、得意な事なども伝え、出来る限りこれまでと同じ暮らしが出来るよう支援している。又、利用者や家族に対しては、面会に行くようにし、利用者・家族共に会話をするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにセンター方式を活用しており、担当職員が時間をかけ、出来る限り本人の思いを聞き出すよう努めている。又、日々の生活の中で本人が話した事を、本人の言葉のまま日誌等に記録している他、「希望を叶えてシート」に記録し可能なものは日程等を調整し叶えられるようにしている。	日々の生活の中で利用者が話すことを記録した「希望叶えてシート」に、本人の言葉をそのまま書き込んで想いや希望を把握し、実行に向けている。自分から思いを伝えることが出来ない利用者には、選択肢を出して決めていただいている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者、担当ケアマネージャーの協力を得て、今までの生活を把握し記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の観察や職員同士の情報交換で、日々の状況を把握している。又、日常生活の中で一人一人の「出来る事」を見つけ出し、出来る限り継続していけるよう側面から支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族が希望しているケアを組み込み、ケアプランを作成している。又、毎月の運営会議の際、全職員の意見等を聞き、その都度話し合っている。プランについては、原則として6ヶ月に1回、見直しを行っている。	ケアプラン作成には、担当職員を中心に全職員で話し合って作成している。家族が毎月通院介助で来所する際にも、希望を聞いている。利用者の変化にはその都度話し合いを持って、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護・夜勤日誌や連絡ノートを活用し、次の勤務者への申し送りを行っている。又、ホーム内の細かい情報を全職員が連絡ノートを通じて共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	原則として病院受診は家族対応としているが、家族の都合がつかない場合は、施設で対応している。又、家族からの要望で急な外泊や、利用者からの要望の買い物・美容室など、出来る限り対応している。又、家族の希望で敬老会で着物を着せて欲しいと話があり、職員が着付けの対応をした方もいた。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回の法人全体での避難訓練の際、地域の消防団・小中学校PTAの消防クラブ等の協力を得ている他、近所の美容院の方の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの主治医との関係を切ることなく、継続的に医療が受けられるよう支援している。やむを得ず転院が必要な場合は紹介状を頂き、医療が円滑に行えるよう支援している。又、受診時には「通院カード」を作成し、病院受診が円滑に行えるよう支援している他、状態が変わった際などは計画作成担当者も通院に付き添うようにしている。	全員の利用者が、入居前からのかかりつけ医を利用しており、家族が対応している。受診時には状況やバイタル等の情報を記入した「通院カード」を提供している。詳しい情報が必要なときには、職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師に、利用者の情報・内服薬内容・かかりつけ医を伝えており把握している。又、利用者の特変や急変時には、すぐに診てもらい指示を仰いでいる他、吸引や処置等の対応も行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の県立二戸病院と連携し、担当医と相談や情報交換を行っている。又、入院した場合、職員が病院へ出向き情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族には状態の低下がある場合は、併設の特養へ住み替えることを説明し、家族の理解を得ている。又、法人でターミナルケアについての勉強会を行っており、法人全体で支援する体制作りにも努めている。	重度化に対して、家族の不安と心配を軽くする取り組みとして、ホームで出来る範囲を説明して、法人の特養で引き続きお世話が出来ていくことを説明し、家族の納得を頂いている。法人としてターミナルケアの勉強会を年1回行い、支援体制作りにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備え、各マニュアルを整備しており職員が周知している。又、年1回行う救急救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所では月1回、火災・地震等に備え訓練を行っている。内容も火災発生箇所を代え、夜間出火想定も訓練を行っている。又、法人では年に2回、地域の消防団・小中学校PTAの消防クラブ等の協力を得て、災害等の避難訓練を行っている。	ホーム単独で毎月1回避難訓練をしている。訓練には地域消防、小中校PTAによる消防クラブ、推進会議委員、地域の方々も協力している。日中に、夜間想定で訓練を行っている。震災を教訓に発電機、暖房器具を準備し、災害に備えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の声掛け等にも注意を払っている。又、法人では個人情報委員会を設置し、各事業所で個人情報について問題があれば、話し合っている。	声掛け(特にトイレ誘導、使用中の声掛け)には、細心の注意を払っている。法人の個人情報委員会で話し合いや勉強会を行い、日々のケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、聞く姿勢を大切にし、環境や表情など、利用者が話しやすいよう環境・雰囲気作りに努めている。又、自己決定が出来るよう、選択肢を増やす等の工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に寄り添う事で、個々のペースに合わせ待つことを大切にしている。又運動レクやアクティビティなども無理に押し付けないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に理容に関しては、月1回市内の理容協会の方々が散髪をしてくれる。希望があればホーム内で白髪染めを行っており、又、希望で近くの美容室で散髪やパーマをかける方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	平日の昼食は併設の特養で摂取しているが、それ以外の食事の準備・片づけは当番制で職員と一緒にしている。当番以外でも積極的に手伝ってくれる方が多い。	朝、夕の食事はホームで行う。当番になっている利用者は、声掛けがあれば、早起きをして、エプロンをつけて、準備の手伝いをする。利用者同士で、お世話する人、指示する人があり、良い人間関係が作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量については職員が把握しており、少ない場合等は本人の好きな物を購入し摂取している。又、法人の栄養士の指導を得ながら、栄養バランス等をチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けと介助を実施している。特に昼食後は勤務者全員で対応し、口腔内の状態把握と観察を行い、異常の早期発見に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを把握するよう努め、誘導や声掛けを行っている。間に合わない場合でも、本人を傷つけないよう配慮した声掛けを行うようにしている。	全介助が必要な利用者は1人、他は誘導、声掛けで対応している。失敗しても話題にせず、利用者がその場を離れてから片付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には乳製品を毎日飲み、1日3回りんごを摂取している。又、便秘がちな利用者には水分摂取量を多く摂ってもらったり、運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は午後としており毎日、入浴可能で、拒否した場合は時間をずらしたり、体調不良の場合は清拭等で対応している。仲の良い利用者同士入浴することも多い。	大き目の浴槽で、仲の良い利用者が2人で入浴することもある。清拭、着替えで対応することもある。 多くはないが、入浴を拒否した時は、時間を置いて声を掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間に関しては、利用者が談話室や和室・居室等、好きな場所で自由に休んでいる。夜間に関しては、就寝・起床時間は個々に応じて支援している。又、冬季に関しては希望があれば足浴を行ったり、湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬情報のファイルを作成し、常に内服薬を確認出来るようにしている。通院後に内服薬が変更になった場合は、必ず申し送りをし全職員が把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前の情報から把握しているが、その他、会話の中からヒントを得ながら、個別的な希望・要望に応えるよう努めている。入浴後にアルコールを少量飲む方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近所まで散歩したり、他にも買い物等の希望があった場合は、その都度対応している。他利用者の通院送迎の際、ドライブがてらに一緒に車に乗っていく方もいる。	昼食をとり、特養まで歩いて往復(雪のある冬季間も)している。天気の良い日は事業所外の坂の下のお店まで出掛ける利用者もいる。食材買出しには全員が(数人に分けて)出かけ、牛乳、がんづきなど自分の好きなものや、洋服を買う利用者もいる。季節ごとに法人のバスで出掛けている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホーム アミーチ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者には2000円程度の管理をしてもらっている。買い物の際、自分で支払ってもらうこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は、その都度対応している。又、毎年年賀状を家族へ出しており、返事が来る方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・談話室は広くゆったりとした空間がある。天窓から差し込む陽が温かく、やすらぎを感じられる。和室には毎月の習字、廊下にはちぎり絵等を飾っている。	木材を多く使い、落ち着きと安らぎがあり、天窓からの採光が温かい。畳の小上がりには、お茶道具一式があり、月1回のお茶会に使用している。習字、ちぎり絵と利用者の作品が飾られている。希望者を除いて居室の表札は無く、各部屋は樹木の名前で表記されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室と和室にそれぞれテレビがあり、一人で過ごしたり、気の合った方同士で過ごす方もいる。又、仲の良い方同士、お互いの居室へ行き会話を楽しんでいる方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物を持参している方もおり、中には家族さんの写真を飾っている方もいる。花が好きな利用者さんの部屋には花を飾るようにしている。	以前は気にいった暖簾を使用していたが、消防署の指導で防災の暖簾に統一されている。居室はフローリングで、電動ベッド、洗面台、ヒーター、クローゼット、換気扇が配置されている。整理ダンス、椅子、テーブル、鏡台、写真など、なじみの道具を使用している。居室は掃除が行き届き清潔で気持ちが良い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	苑内はバリアフリーが活用され、段差も無い為、安全な歩行が可能である。居室が分からないからと本人希望で、居室の入り口に貼り紙や飾り等を付ける等の工夫をしている。		